

氏名	劉 瑜
授与した学位	博士
専攻分野の名称	環境学
学位授与番号	博甲第3931号
学位授与の日付	平成21年 3月25日
学位授与の要件	環境学研究科 社会基盤環境学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文の題目	日本における近世以前の土木遺産に関する研究
論文審査委員	教授 馬場 俊介 教授 阿部 宏史 教授 谷口 守

学位論文内容の要旨

本研究は、近世以前の土木遺産に関して悉皆調査を行い、科学的な評価基準を確立することを目的としている。第一に、近世以前の土木遺産を調査する方法論、価値評価方法論について分析を行った。第二に、全国近世以前の土木遺産に関する調査結果を分析し、各地の地域的な特徴を抽出した。具体的な概要は以下のようになる。

第1章では、研究の背景を述べ、日本における近世以前の土木遺産に関する総合調査を実施するための必要性を明らかにする。

第2章では、近世以前の土木遺産の総合調査の内容と現状を明らかにする。調査に関して、対象となる構造物の選定および理由の解析をし、調査方法を論じる。それに、調査の結果に基づいて、その現状と問題点を指摘する。

第3章では、悉皆調査を行うことより、近世以前の土木遺産の総合データベースを構築した。本章は、調査の成果として、現時点での全国都道府県ごと、および、構造物ごとのリストを提示する。また、リストを示した上で、近世以前の土木遺産の分布状況及び文化財の指定状況を分析する。

第4章では、近世以前の土木遺産に関する価値評価方法を確立する。ここでは、近代とは異なる視点から、特有な価値判断基準を樹立することに主眼をおく。すなわち、本質価値及び保存状態から近世以前の土木遺産について評価指標の基準を設定する。そして、評価方法を用いて、事例をあげながら価値を判定する。

第5章では、全国各地の近世以前の土木遺産の現況と地域性の特徴を探る。それは、東北エリアから九州エリアまで各県ごとの実例を踏まえながら、地域特有の近世以前の土木遺産をまとめる。

以上の分析により、近世以前の土木遺産の総合調査に基づき、データベースの構築、価値評価基準の確立、各地方の地域性の抽出及び保存・活用事例の収集し、そして、「景観法」によるまちづくり、地域の発展に、ある方向性を示すことができると考えられる。

論文審査結果の要旨

本研究は、わが国で初めての近世以前の土木遺産を対象とした総合調査であり、①数年にわたる各種ルートによる徹底的なデータ収集（約 5000 件）、②約 950 ヶ所の現地調査、③評価方法の提案と検証（保存状態と本質的価値への評価の二分化）、④「景観法」を考慮した地域性の抽出（47 都道府県）、といった多方面にわたる研究を包含している。総合調査そのものは、個人の力ではできず、また、時間的にも完成の域に達するまでには、今後 4～5 年程度を要すると思われるが、その最初の軌道を敷いたことは、きわめて重要なプロセスである。しかも、それを、100%日本語を操れない中国人留学生が成し遂げたことは、高い評価を受けるに値する。今後、学位論文の成果は、①～④項目の徹底的な精査を踏まえ、2009 年度中のウェブ上での情報の一部公開に始まり、最終的には全リストの出版物による公開により、これらの貴重な文化遺産の保護を目指すとともに、「景観法」による地域の文化と伝統を生かしたまちづくりに大きく貢献できるのではと期待している。すなわち、本研究のもつ社会的意義には、きわめて高いものがある。こうした流れの一環として、本論文の存在はきわめて重要で、岡山大学大学院環境学研究科の博士論文に十分ふわしいものと判断する。